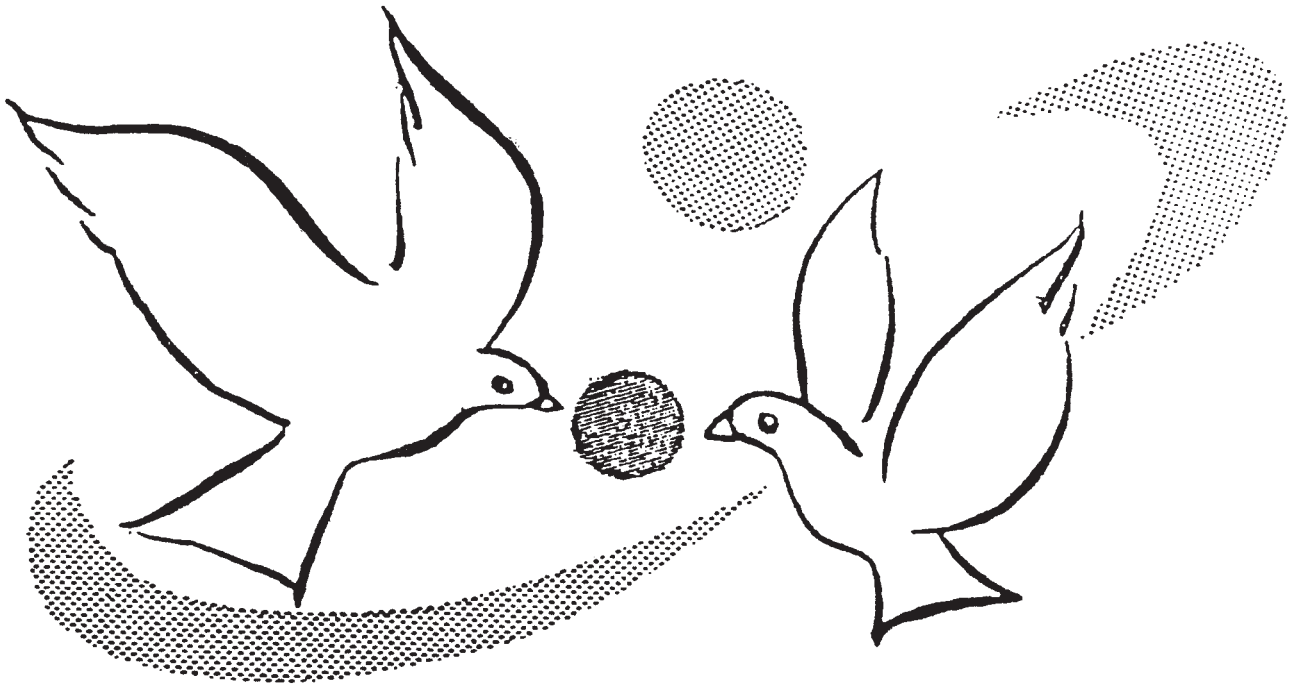
広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



―令和５年度―

（2023年度）

城　陽　市

市の木　梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。

南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。

市の花　花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月７日市制施行10周年を記念し制定。

豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。

市の鳥　しらさぎ

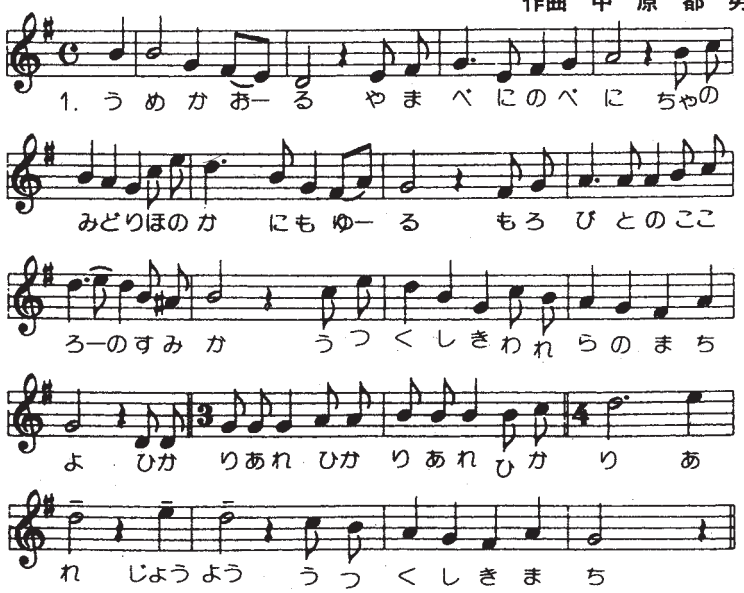
平成19年（2007年）11月７日市制施行35周年を記念し制定。

『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城　陽　市　歌

明るくのびのびと

作詞　龍村孟雄
作曲　中原都男



2．松あおき　鴻の巣山に
鳥啼きて　明るき陽ざし
こだまする　槌のひびきに
ひらけゆく　われらのまちよ
栄あれ　栄あれ　栄あれ
城陽　ひらけゆくまち

3．砂しろき　木津の流れに
黄金なす　稲穂のみのり
山の幸　野の幸さわに
ゆたかなる　われらのまちよ
恵あれ　恵あれ　恵あれ
城陽　ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）２月15日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い、町歌を市歌とした）

城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行４周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）４月26日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い町章を市章とした。）

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

一、自然を生かし　美しい緑を育てましょう
一、教養を深め　豊かな文化をつくりましょう
一、心身を鍛え　働く喜びを大切にしましょう
一、隣人を愛し　ふれあいの輪を広げましょう
一、秩序を守り　やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（１９８２年）11月７日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法の精神に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言

城陽市役所庁舎　南玄関前

令和５年７月２７日（木）

城陽市役所集合

出発（小学生６年生２２名・中学生１２名　合計３４名）

昼　食

原爆ドーム・爆心地見学

平和記念資料館見学

被爆者講話（飯田國彦氏）

ホテル到着

入　浴

夕食等

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

ミーティング

消　灯

令和５年７月２８日（金）

ホテル出発

↓

広島平和記念公園到着

原爆ドーム（対岸）

原爆の子の像

原爆死没者慰霊碑

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島風お好み焼き体験（昼食）

広島市出発

城陽市役所帰着

解　散

目次

戦争の怖さ　久世小学校　6年　江口文太　1

広島に行って学んだこと　久世小学校　6年　髙田凰士朗　1

8月6日8時15分の悲劇　久世小学校　6年　小出光紗　2

戦争と平和について考える　久津川小学校　6年　片岡杏佳　3

広島に行ってみて　久津川小学校　6年　吉岡花音　4

広島と原子爆弾　古川小学校　6年　雲丹亀爽　5

原爆の恐ろしさ　寺田小学校　6年　吉川友稀　5

平和の大切さ　寺田西小学校　6年　浦谷心羽　6

広島を訪れて　寺田南小学校　6年　新城貴行　7

広島へ行って　深谷小学校　6年　小笠原亮太　8

広げよう、平和の輪　深谷小学校　6年　畠中駿輔　9

広島に行き学んだこと　深谷小学校　6年　光成彩笑　9

広島に行って　青谷小学校　6年　奥村日葵　10

絶対に忘れない　青谷小学校　6年　宗片こと　11

広島派遣団に参加して学んだこと　富野小学校　6年　岡井啓真　12

原爆の悲惨さ　富野小学校　6年　柿林琉菜　13

広島で学んだこと　富野小学校　6年　福井虹七　14

広島に行って　富野小学校　6年　藤原柊乃　14

広島に行って　富野小学校　6年　古川智彩　15

広島で学んだ事　富野小学校　6年　松田愛碧　16

広島平和派遣で学んだこと　富野小学校　6年　山口結美　17

原爆の恐ろしさ　富野小学校　6年　山口りかこ　18

原爆の悲惨さを知って　城陽中学校　1年　藤井祐之介　18

広島での二日間　城陽中学校　1年　杉村侑香　19

広島派遣団に参加して　西城陽中学校　1年　吉岡凛太郎　20

広島に行って　西城陽中学校　1年　植村更咲　20

広島で学んだこと　東城陽中学校　2年　中野太陽　21

広島から学んだこと　東城陽中学校　2年　宮木美怜　22

原爆の恐ろしさ　北城陽中学校　2年　里夏実　23

今を大切に　北城陽中学校　2年　小沼咲空　24

広島派遣団に参加して思ったこと　北城陽中学校　2年　廉隅心空　24

広島をおとずれて　北城陽中学校　2年　鈴木奈々　25

戦争に対して思う事　北城陽中学校　2年　山六わこの　26

戦禍の広島の惨状と平和への決意　京都教育大学附属桃山中学校　2年　三木彰一朗　27

戦争の怖さ

久世小学校　6年　江口文太

ぼくが広島派遣団に応募しようと思ったきっかけは、学校からプリントをもらって、広島に行ってみたいと思ったのと、戦争を知ってる人が身近にいなかったので、戦争について勉強してみたいと思ったからです。

広島にとう着した日は、とても空が青くていい天気でした。広島市の景色もきれいでワクワクしました。こんな美しい街に戦争の大きな被害があったなんて信じられませんでした。

平和記念資料館を見学して、原爆によって身体がドロドロにたれて目が飛びだした人の絵や、たくさんの亡くなった人の写真やボロボロになった服や物を見て、現実に戦争があったのだと怖くなりました。

その後、被爆者の飯田さんのこう話を聞きました。飯田さんは3才のときに被爆されました。お母さんとお姉ちゃんも被爆し亡くなられたそうです。お父さんは戦争で亡くなっていたので、飯田さんは一人ぼっちになりました。そのあとはおばあちゃんや親せきの人にそだてられたそうです。飯田さんは、戦争が終わって何十年たった今でも苦しんでいます。戦争は終わっても被害はずっと続いているのだなと思いました。ぼくは悲しくてたまりませんでした。

今も戦争をしている国があります。かく兵器を持っている国もあります。これ以上悲しい思いをする人が一人でも少なくなればいいのにと強く思いました。

今回、広島に行き戦争の怖さを知り、平和の大切さを学びました。ぼくは、今回の体験を家族や学校の友達に伝えたいと思います。たくさんのことに気づくことができたので、広島派遣団に参加して本当に良かったです。

二日目に作った広島風お好み焼きの味も一生忘れません。

広島に行って学んだこと

久世小学校　6年　髙田凰士朗

僕が応募（広島派遣団に参加）しようとしたのには二つ理由があります。一つ目は親から、「戦争について学んできて」と言われたからと、自分が最近、原爆や戦争について少し知りたいなという深く考えない気持ちで応募してみました。

広島の一日目は、平和記念資料館へ見学しに行きました。資料館では、被爆された方のくつや服、帽子がありました。服などを見て、僕は胸が苦しくなり、長い時間見ることができませんでした。他にも資料館では、原爆後の町の風景の写真・被爆した人の絵・被爆後に町で見つかった三輪車などが展示してありました。僕は以前から三輪車のことを知っていましたが、実際、生で見ると感じ方が変わりました。

また、一日目の夕方に、飯田さんから講話を聞きました。飯田さんは子供の時に被爆されたそうで、はっきりきおくは残ってはなさそうでした。しかし、たくさんの話をしてくれました。飯田さんの

話によると、被爆した人はひふがやけてとけてしまっていたそうで「水をください」と言っていたと言った時に、僕は被爆して水を飲んだ人は死んでしまうという話を思い出しました。だから、水を飲んだ方が良いのか飲まない方がいいのかわからなくなりました。

二日目は原爆の子の像や原爆ドームに行きました。原爆の子の像は十二さいのときに被爆し病気になった佐々木さんが、つるを折れば病気が治ると信じたけれども亡くなって、原爆で亡くなった全ての子供たちのために建設された事を知り、原爆の子の像にはたくさんの人々の思いがあるのだと思いました。

原爆ドームに着くとガイドさんが原爆ドームのことをたくさん話してくれました。原爆ドームは被爆前、広島県物産陳列館という名前だったらしく、建物ががん丈だったにもかかわらず、原爆後、屋根やかべがなくなっていたり、それに加え、そこにいた人が全員亡くなったという話をきいて、原爆はとてもあぶないミサイルだと改めて思いました。

二日目の昼ごはんは広島焼きの体験をしに行きました。体験しに行った所の人が丁ねいに教えてくれたので、上手に作ることができました。

この二日間を通して、僕はたくさん戦争や原爆の事を深く考えたり、たくさんの事を学びました。この戦争は後世にもわすれないように、たくさんの人に広島のことを広めていきたいと思います。

8月6日8時15分の悲劇

久世小学校　6年　小出光紗

今回、私が広島派遣団に参加しようと思ったきっかけは、社会の授業で戦争のことを知り、戦争にあった人はどんな景色をみて、どんな思いだったのか知りたいと思い参加しました。

一番印象に残っているのは、平和記念資料館で見た、原爆投下直後の広島の写真です。私は、その写真を見ておどろきました。なぜなら、ほとんど何も残っておらず、原爆ドームと、がれきだけで殺風景だったからです。その1枚の写真だけで、戦争の恐ろしさや、悲惨さがとてもよく伝わってきました。

平和記念資料館には他にも展示物があり、どれもとても生々しく、とくにケロイドは見てはいけないものを見てしまったかのような感じがしました。なにか物を入れていた小さなビンは、下の部分がとけていて原型をとどめていないものもあり、銀行の石段に座っていた人は消えていなくなり、その人が座っていた所は黒くなっていて、言葉にならないような光景でした。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、平和記念資料館とちがい、とてもうっそうとしていました。そこでは、被爆した人の話を聞けたり、原爆で亡くなられた人を探したりできます。原爆が投下されたときを再現した映像を見ることができます。その映像の中に木の船に乗っていた人が、原爆がおちて水にもぐり、原爆の熱で顔が人間らしくない顔になってしまったものがありました。たとえ生き残ったとしても、その後生きていく中で苦しみをあじわいます。こ

んなことになる原爆は二度と使ってはいけません。
私は広島に行く前までは、原爆をおとしたアメリカが悪いと思っていました。しかし、今回広島に行き、そうではなく戦争をしかけた日本をアメリカはおさえようとしたのではないか、と思いました。だからといっていっしゅんで何十万人もの人を殺せてしまう原爆を使うのは、やってはいけないことだと思います。しかも、今各国が所有している原爆を使うと広島のときより、もっと大きい被害が出ると思います。
私は、日本の人たちにはもちろん、世界中のまだ戦争や原爆について知らない人に戦争や原爆の恐ろしさを知ってもらいたいと思います。そして争い事を武力でおさえたらいいと思っている人や、今世界で戦争をしている国に戦争について考え直してもらいたいです。
今回広島派遣団に参加して良い経験になったと思います。ありがとうございました。

戦争と平和について考える

久津川小学校　6年　**片　岡　杏　佳**

私の誕生日は8月15日、終戦記念日です。それを聞いた人は、大変な日に生まれたんだねと言います。私はずっと、いい日に生まれなかったんだと思っていました。
今回の平和のための小中学生広島派遣団に応募したきっかけは、広報の募集を見た母から戦没者を追悼し平和を祈念する絶対に忘れない日に生まれたんだから、何か使命があるのかもしれないしとてもいい機会だから、参加してみたらと勧められ、そうだなと思ったからです。
広島で2日間過ごし、被爆者の方の話を聞いて特に印象に残った事が2つあります。
一つ目は、戦争は人間が作った兵器によって、罪のない人々が死ぬことです。人間であることが怖いと思いました。
二つ目は、原爆の威力です。原爆は爆心地の上空６００ｍで爆発し爆発と同時に数百万度近くに達したそうです。そして、熱線で数えきれない人々の皮膚が焼けつくされて亡くなり、離れたところに居た人でさえ火傷を負い、爆風により建物はほとんどが倒壊し人々は吹き飛ばされて即死、放射能による障害で数日のうちに死亡し、無傷と思われた人々も月日が経過してから発病し死亡した例もあるそうです。
破壊された当時の状態のままの原爆ドームを実際に見て、写真で見て想像していたよりも大きかったです。その大きく丈夫そうな建物がボロボロで悲惨な姿でした。後から調べると爆心地からは１６０ｍの所にあると知りびっくりしました。
放射線なんて怖いものは無くなればいいのにと家族に言いました。そうすると父と母は放射線って身体に悪い影響を与えるイメージを持つ人ばかりだけど、放射線はエックス線で体内の検査をしたり、ガンの治療に使ったりもするんだよと言っていました。正しく使えば助かる命もあるが、間違った使い方をすれば、兵器になることもあるとわかりました。

今年で終戦から78年たちました。実際に被爆された方や、戦争を経験した方、その遺族の方からの話を聞く機会もどんどん減ります。2日間で、聞いたり見て感じた恐ろしさは、実際そこにいた人の恐ろしさとは比べ物にはならないかも知れないけれど、これからも悲しい戦争を二度とくりかえさないために平和を守り命の大切さを伝えていける一人になりたいと思いました。

広島に行ってみて

久津川小学校　6年　**吉　岡　花　音**

私は七月二十七日、七月二十八日と、広島派遣団として、広島に行きました。

広島に行くまではとても楽しい時間を過ごしました。その時はまだ戦争のこわさを知りませんでした。

広島につき、原爆ドームを見学した時に、ガイドさんが原爆ドームの事をたくさん説明してくれました。私はその話を聞いて、本当に原爆はとてもすごかったんだなとあらためて思いました。

次に資料館に行きました。資料館で一番頭にのこっているのは、原爆から7年後にとられた写真です。その写真は、原爆で亡くなられたかたの遺骨がたくさんつみかさなっている写真です。私はその写真を見てとても心がつらくなりました。

次に被爆をされたかたのお話を聞きました。私はお話を聞き、とてもおそろしくなりました。一発の原子爆弾でいままで住んでいた場所や遊んでいた場所、人がいっしゅんにして消えてしまいました。原子爆弾で亡くなった人は約14万人、遺体や遺骨、見つかっていない人はまだまだいます。もし生き残れたとしても、放射能のせいで病気になり亡くなってしまう人もたくさんいました。私は、お話を聞いてから、もうぜったいに、戦争をしてはならないと思ったし、二度と原爆というものをつかってはいけないと心から思いました。

二日目は、平和公園に行き、原爆の子の像に折りづるをささげました。折りづるをささげる所にはたくさんの折りづるがささげてありました。私はその折りづるを見て、たくさんの人が、広島に来て、平和について知ったんだろうなと思いました。

次に慰霊碑に花をささげました。花をささげる時に「これからも平和が続きますように。」とお祈りをしました。今はこんなにも平和だけど、昔はぜんぜん平和ではなかったことが、分かりました。

次に追悼平和祈念館に行き、見学をしました。いろいろな展示がありました。その展示の中で一番頭に残っている展示は、遺影のコーナーです。タッチパネルで亡くなった人の名前をうつと、その人が、原爆がおとされた、被爆した年れいや当時働いていた場所がくわしく知れるのはすごいなと思いました。戦争はもうぜったいにしてはいけないし二度と原爆はつかってはいけないと思いました。私は戦争などせず、世界がずっと平和でずっと幸せなことを願います。

広島と原子爆弾

古川小学校　6年　**雲丹亀　爽**

ぼくが広島派遣団に参加した理由は原爆や戦争について知り、その恐ろしさを多くの人に自分が伝えようと思ったからです。

広島について一番最初に思ったのが、こんなにぎやかなところに原爆は本当に落ちたのか、原爆の影響はそこまでなんじゃないかなと思いました。しかし、原爆ドームや島病院、資料館へいくと考えが大きく変わりました。なぜならそこには爆発で粉々になった建物や、熱風で灰になった人、「原爆症」でベッドに横たわる人の姿の写真が何十枚とあったからです。それでも生き残った人たちはいますが、その後にふった放射線が入った黒い雨を体中に浴び、「原爆症」となり、亡くなられたそうです。

ぼくが原爆で一番怖いと思ったのは「原爆症」です。なぜなら原爆から生き残った人も大量の放射線を浴び、細胞がこわれ、体の器官やはたらきを悪くしていくからです。加えて放射線はすぐに人をきずつけるだけでなく、何年もたってからいろいろながんを引き起こすため、被爆した人はいつでも何かしらの病気を持っていて、心と体に不安をもっています。

次に被爆体験者のお話を聞きました。被爆体験者のお話では、原爆は秒速四百四十メートルで、音よりも速く、「ピカッ」とした後すぐに被害が来たため「ピカドン」と呼ばれたという話や、原爆に対する市の救さいは七年後という市の対応に関するお話を聞かせてくださいました。その中でもぼくが特に強い印象を持ったのが、原爆で大火傷を負った人たちが水を求め、広島市にある七つの川に次々と入り、七つの川が全て遺体であふれたという悲惨な話を聞き、なぜここまでして、戦争で勝とうとするのだろうと思いました。

被爆体験者は、戦争や紛争を無くすため、私たちにできることを教えてくれました。それは、「みんなちがって、みんないい」です。自分と相手のちがいを見つけて差別しないで、自分とは違うけれど、あれがあの人のいいところなんだなと、自分と相手のちがいを認めてあげることが大事ですと話され、ぼくは、ぼくたちにあるちがいを怖がるのでなく認め合うことで、ぼくたちの「平和」が保たれると分かりました。それと同時に被爆者、「原爆症」の人も、放射線で体が変わっても、恐ろしい原爆の被爆者で、心と体に多くの傷を負ったのだから、差別などせず、普通の人と同じように接してほしいなと思いました。

広島に行って分かったことは、原爆は多くの人の「平和」を一瞬にして奪い、二世、三世にも影響をおよぼす、あってはならないものということで、戦争、核兵器をなくすのが今を生きるぼくたちの責任だと思いました。

原爆の恐ろしさ

寺田小学校　6年　**吉川友稀**

ぼくが広島派遣団におうぼしたきっかけは、社会の授業で原爆について学び、そこで、原子力爆弾がひきおこす事とはどんな事か、

また広島に何が起こったかを実際自分の目で見たいと思いました。そんなときに、城陽市の広島派遣団のおうぼのページを見つけました。

派遣用のバスで約5時間かけて広島市原爆ドーム前に到着しました。そして、平和記念資料館を見学しました。展示物に被爆前後のビンがありました。被爆後のビンは、中央部分が凹んで溶けていました。ビンの底側は、真黒にこげていました。また、瓦は原子爆弾をあびたことによって、色素がぬけたようなこげ茶色になってざらざらしていました。お弁当箱の中身は、見る影もなく全てが炭化されて真黒になっていました。これを見て、原子爆弾の威力のすさまじさを知り、一瞬にして市民の日常がうばわれたんだと思い心が痛みました。

ぼくは、原爆にも興味がありました。広島型の原爆は、長崎型原爆にくらべ短いことがわかりました。名前はリトルボーイ。長さ約3メートル、直径約0・7メートル、重さ約4トンの爆弾です。威力は、語り部の飯田國彦さんによると、爆風は、秒速四四〇メートル(マッハ一・三)。これは大型台風の約十一倍だそうです。熱線は、約三〇〇〇度から四〇〇〇度だそうです。放射線は約七〇〇〇msvだそうです。(鉄のとける温度は、約一五〇〇度程度)。それだけではなく、放射能をふくんだ黒い雨がさらなる被害をもたらしたようです。それは、急性放射線障害(下痢や脱毛、出血傾向、急性白血病)とよばれるものです。これは、自分だけではなく子や孫へと影響していきました。

原爆の候補地は、東京、京都、神戸、名古屋、大阪、横浜、川崎、広島、小倉、八幡、山口などがありました。そして京都がふくまれていてもし京都に落ちていたらと思うと、こわくなりました。平和のつどいでの語り部の方も強く言われていました。被爆被害は、その時だけでは終わらず、お腹の子へも影響する。苦しみは終わらないと。もし、ぼくの祖父母が被爆していたらと思うと胸がしめつけられる思いがしました。

ぼくは広島派遣団に行って、原爆のおそろしさを学びました。戦争は二度とくり返してはいけないと強く思いました。貴重な経験をありがとうございました。

平和の大切さ

寺田西小学校　6年　**浦谷心羽**

私が広島派遣団に参加した理由は、学校で広島サミットのプリントをもらったからです。平和がない世界では、どのようなことが起きていたのか知りたかったので、広島派遣団に参加しました。

広島平和記念資料館へ行って心に残ったことは、「人かげの石」です。人がすわっていた周囲が白くなり、人のかげのようなものが地面に映し出されているのを見ると、その場から動くことすらできないくらい、一しゅんで爆発したのかなと思いました。もし自分がこの場に居たら、きっと自分のことしか考えていなかったと思います。でもその中で、母親たちは子供を探していたと知って、自分の痛みをがまんしてまで、子供を探すなんてすごいと思いました。

焼けこげてボロボロになった子供の服や、溶けた三輪車なども展

示されていて、原子爆弾の強さを思い知りました。
講話を聞いて、一・二キロメートル以内で直げきを受けた人は、体の内部組織にまで大きな障害を受けたと知りました。爆発地点では、百万度以上の熱が約二秒で地上に落ちたと聞いて、体全体が「ゾワッ」としました。溶岩よりもはるかに熱いなんて、考えられないからです。
私はこの感想文を書く時に、「どうして」が沢山出て来ました。どうして広島に原爆を落とさなければならなかったのか、どうしてたった一つの命を何万もうばったのか、どうして人を簡単に殺してしまうのか、と思いました。だからこそ、今ある命を大切にして、「平和」であることがどれだけ幸せかをよく考えながら生きていこうと思いました。
この二日間を通して戦争や原子爆弾への考え方が変わったので、それを沢山の人に伝えて、この世界を平和にしたいです。広島派遣団に参加出来て良かったです。ありがとうございました。

広島を訪れて

寺田南小学校　6年　**新城貴行**

七月二十七日の朝、「平和のための小中学生広島派遣団」の一員として参加し、城陽市役所に集合しました。城陽市内からのいくつかの小中学校から三十四名の生徒たちが集まり、そこから一泊二日の旅が始まりました。城陽市役所が用意した大型バスを利用して高速道路を西方向に走り約五時間程で広島市に到着しました。
まず、原爆ドームまで行って写真を撮りに行き、その後、平和記念資料館での見学が始まりました。私の場合、英語でのオーディオガイドが必要であり、それを利用させてもらいました。特に気が付いた事では、原爆で焼けてボロボロになった服、それと血の付いていた服、曲がり焦げた物とか、その他には、原爆後に記ろくとして、いろいろな事を絵に描かれた物を見て感じた事は、こわいとは感じませんが、とてもさびしい気持ちになりました。
その後は、被爆体験者のお話を聞き、原子爆弾のすごさを知りました。原爆で鉄格子だけが残された建物を見たときには、一瞬で建物もこなごなになり、それから生活をも狂わせるぐらいのすごさは、なぜこの様な形を取らなければいけなかったか？この様な米国のやり方で良かったのかな？と思うところが、有ります。
見学が、ひととおり終わった時点で、これから滞在するホテルに、チェックインをし、すぐさまシャワーにはいりました。その後は、夕食となりました。また、各自が、持って来た折り鶴を集めました。それからは、各自の部屋にもどり、一日をふり返りながら、消灯しました。
あっという間に朝が来て、顔を洗い、歯ブラシを終えて、朝食をいただきました。平和記念公園で佐々木さだ子さんの銅像にみんなで、持ち寄った折り鶴をささげてその場所を、あとにしました。それから次に追悼平和祈念館を訪問、見学し途中でクイズなども有り、有意義な時間を得られたと思いました。
そこからは、広島の有名なお好み焼きを、自分たちで作る体験もしました。とてもおいしかったと思います。

その後は、またバスに乗り広島を出発しました。みじかい様な日程でしたが、原爆が、もたらした、たくさんの方々の命をも奪われましたが、米国としては戦争を終わらせる為だったとは言え、行った事、正しい事では、無かったかなと思いました。

高速を、走り城陽市へと向い五時間のあいだにインターチェンジの店に立ち寄り、家族へのおみやげも購入できました。

この二日間で、広島派遣団として参加した、小中学生のみんなと、話が、出来た事は、個人的に有意義だったと思います。

この機会を作って、いただいた城陽市役所の方々に、感謝を申し上げます。

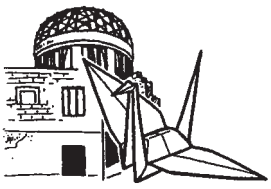
広島へ行って

深谷小学校　6年　**小笠原　亮　太**

被爆体験証言を聴いて、爆風が爆心地から、秒速四百四十メートルの速さで吹き、大型台風の約十一倍、竜巻の六倍ということや、爆心地は三千から四千度になり、三輪車がサビてとけてしまったこと、七千シーベルト以上の放射線で全員即死したこと、数万人の遺体は原型をとどめなかったこと、焼け跡をほっても骨は見つからなかったこと、どんなに頑丈な建物も全かい全焼になり、「水をください。」と川の中に行く人、皮がはがれたり、服が燃えたりすること、原爆供養とうの七万人の遺骨、一九四五年末までに合計十四万人（プラスマイナス一万人）が亡くなったこと、白血病やがんになったり、ノイローゼになったりすることを知りました。

また、原爆が毎日夢の中で出てきて、気が狂う恐怖を感じていることを知りました。母の死後、父方の祖母に養われ、祖母の死後急に淋しく悲しくなったことも知りました。原爆は十四万人の人を殺し、三千度から四千度の温度になったことを知り、すさまじい威力だなと思いました。アメリカはなぜ広島に原爆を落としたのかや当時のアメリカと日本の関係性を知りたいです。被爆の後にケロイドになったり、視力が低下したり、小頭症になったり、様々な病気を知りました。原爆によって多くの建物が全かい全焼しましたが原爆ドームは残りました。そのことについてもっと知りたいです。原爆の被害を受けた広島は、周りからどんなえん助があったのかなどを知りたいです。今も、原爆のえいきょうで亡くなる人はいるか知りたいです。いたとすれば何人ぐらいなのかも知りたいです。

原爆のことはどうやって、他の国に伝えているか知りたいです。核保有国がいっせいに核をやめることはできないのか知りたいです。原爆投下後の黒い雨も大変怖いと思います。原爆を落とした理由が全く分かりません。人の心はあるのか疑問に思いました。二度と原爆は落ちてほしくないです。



広げよう、平和の輪

深谷小学校　6年　畠中駿輔

広島派遣団に参加して、戦争は何もかもをうばい、多くの人々に悲しみを与える残こくなものだと知りました。「世界が平和であること」そのために、自分にできる取り組みはなんだろうと、この二日間は深く考えるきっかけになったと思います。

この派遣を通して、戦争と向き合う気持ちが強くなった訪問地が二つあります。

一つ目は、平和記念資料館です。展示されている写真や物が戦争のおそろしさをうったえかけてきました。それらは、残こくすぎて言葉にするのが難しいと、家に帰ってきた今でも、思います。平和記念資料館は、戦争について、学ぶうえで「言葉」や「文字」が必要ないほど展示物だけで戦争の残こくさを知ることができる場所でした。

二つ目は被爆された方の講話です。一九四五年八月六日、広島の街は、原爆で辺り一面焼け野原になり、多くの人が亡くなったと聞きました。ぼくは、ここまでは知っていましたが、戦争が終わってから、白血病やケロイドなどの後遺症で苦しむ人がいることは知りませんでした。街や建物は、復興できるけれど、人の体や心の傷は、元には、戻りません。だから、戦争は、絶対にしては、いけないことだと思いました。

ぼくは、この世に戦争がない平和な世界を望みます。どの国が強いか。どちらが勝つのか。そんなことよりどうしたら争いがなくなるか、それを考えることが大切だと思います。ぼくだったら、どの国もゆずり合い、ケンカでなく、話し合いで解決するべきだと思います。これからぼくは、今回学んだことを家族や友達に伝えていこうと思います。そうすることで、世界平和を願う声がどんどん広がっていくといいなと思います。

広島に行き学んだこと

深谷小学校　6年　光成彩笑

私は七月二十七日、二十八日の二日間城陽市の代表として広島に行きました。私が広島に行こうとしたきっかけは、新聞を見て友達と行く約束をしたのがきっかけです。

一日目は、平和記念資料館と原爆ドームに行き、講話を聞きました。資料館では、原爆で亡くなった人の服やくつがあったり原爆の写真があったりしました。私は写真などを見て心がいたくなりました。なぜなら、服やくつはボロボロになり血がにじんでいたし、写真には服に穴があいてボロボロになった人が写っていたからです。それらを見てとても心がいたくなったと同時に絶対に戦争をしてはいけないと思いました。

その後、被爆者の講話を聞きました。講話を聞いて私が恐ろしいと思ったことが主に二つあります。一つ目は、亡くなった方の年れいが中学一年生の12さいの子が多かったということです。どうしてかというと、私と同じ年の子が亡くなっていると考えたら悲しいか

らです。私が今、死んでしまうと考えたらとてもこわいです。二つ目は、原爆で亡くなったのではなくて、うえ死にした人もいるのが悲しくて心がいたかったです。原爆でバラバラになって痛みで亡くなるのも、うえ死にで亡くなるのも想像しただけでもつらいです。

一日目の夜に折りづるを班のみんなで束ねて、二日目に、原爆の子の像に折りづるをささげました。その像の所には、折りづるがいっぱいあって、像を見て広島の原爆のことは忘れないでほしいという願いがこめられていると分かりました。その後、平和のともし火を見に行き、花をささげました。他にもたくさんの花がささげてあって、たくさんの人が広島であったことを忘れてはいけないと平和を願っているのだと思いました。

その次は、追悼平和祈念館に行きました。追悼平和祈念館には、広島の原爆について色々なことが知れる資料等がありました。黒い厚い本の中は原爆についての資料があったり、原爆で亡くなった人の名前を知れたり色んなことができました。今回は、ざっくりとしか見れてないので、また家族と広島を訪れて、じっくり見たいです。広島の原爆を日本の人だけでなく世界の人々にも知ってもらって戦争がない日が続くように願っています。

広島に行って

青谷小学校　6年　**奥村日葵**

私は七月二十七日、二十八日の二日間「広島派遣団」の一人として、広島に行きました。

七月二十七日（木）は、最初に爆心地の原爆ドームに行きました。ここは壁の厚さが一mあったらしいです。ですが骨組みだけになっていました。それだけのはかい力があったのだなとびっくりしました。次に「平和記念資料館」を見学しました。入ってエスカレーターをあがると急に静かになり、空気がガラッとかわり重い感覚になりました。ここには、やけおちたボロボロの服や、こわれた三輪車などがあり、亡くなった人達のみじかなものがたくさん置かれていました。リアルな写真などもあり、生々しく見るのがつらい写真が置かれていました。小さい子どもと私とあまり変わらない年れいの子が放射線によりかみの毛がぬけている写真もありました。なぜこんなに小さい子がつらい思いをしなければならなかったのかと思いました。火の中で水をほしがっている絵では、本当にその風景がうかびあがってくるように感じました。とても心が痛かったです。

次は、ひばく者の飯田さんの話も聞きました。飯田さんの話では資料館の写真などとは違う恐ろしさが知れました。かくへいきのお話で「広島に落とされた原爆より今の原爆の方が放射性物質が多くひ害も広島の何十倍にもなる」といっていたことがとても印象にのこりました。今落とされたらひ害はものすごくなるだろうし、亡くなる人も…と考えると、とても恐ろしくなりました。ひばく者の飯

田さんはまだひばくしょうが残っているらしく、とても大変そうでした。飯田さんは「これでもまだましな方。」といっていたのでとてもおどろきました。戦争から生き残ってもいいことばかりではなく悪いこともたくさんあるんだなと知れました。

七月二十八日（金）は、まず「広島平和記念公園内・い霊碑」に行きました。ガイドさんに話を聞くと、一つ一つの像や建物に大事な意味があって大切な建物なんだと思いました。次に「追悼平和祈念館」に行きました。ここでは、亡くなった人達の事をしらべる事ができたり、亡くなった人の日記などがたくさん見れました。亡くなった人の数の多さが改めて実かんできました。昼ごはんは、広島おこのみやきを自分で作って食べました。この時、私は「こうやってたのしく食べれる時代にいてよかったな」と思いました。

私はこの二日間、戦争の恐ろしさや、原爆やかくへいきのこわさ、当時の人々のつらさなど色々な事がまなべました。この事を知らない家族や友達に伝えて知ってもらおうと思いました。自分達（今生きている私達）の命の大切さについて知ることもできました。そして、かくへいきをなくし、戦争が無くなってだれもが暮らしやすく、たのしく健康に生きていける、平和な世界になってほしいと思いました。

絶対に忘れない

青谷小学校　６年　**宗　片　こ　と**

私は、本で読んでいて興味があった原爆のことをもっと知りたいと思っていたところ、友達にさそってもらったので広島派遣団に参加しようと思いました。

一日目、バスで広島市の中心部に入りバスを降りると、すぐ近くに原爆ドームがありました。今では、周りのビルの方が大きくて、ドームが小さく見えたことにおどろきました。七十八年前にこのふつうの町の上に原爆が落とされたとはとても思えなかったです。

広島平和記念資料館を見学しました。心に残ったことは、ひどいやけどとけがをしている人の写真です。本やテレビでは写真を見たことがないので初めてみました。全身けがとやけどでとても痛々しくて、私のカメラでとったものの、今もあまり見ることができません。被爆して、けがをした人がたくさんいる橋の様子をさつ映した人の、「写真をとるのをその場で長くためらい、シャッターを切った」というエピソードが心に残りました。本当にその場にいたら、悲しく、原爆後の様子は心がおかしくなる状況だったと感じました。

追悼平和祈念館で、三才の時に爆心地から８８０ｍのところで被爆された方の講話を聴きました。その中で心に残った話がいくつもありました。まず、爆心地の病院は、当時はコンクリートのかべがめずらしく、しかも１ｍも厚みがあったのに、原爆で粉々になったという話です。がれきになったのではなく、バラバラになったことにおどろきました。その中にいた患者さんや看護師さんは、真っ黒

な炭になり、そのまま粉々になって吹きとばされいなくなってしまったそうです。また、爆心地から少しはなれたところでも、戦後四十二年経ってから、がれきと一緒に骨が見つかったこともあるそうです。何もかもバラバラになったということが信じられませんでした。

今、世界には、広島と長崎に落とされた原爆の数十倍の放射性物質を使った核兵器が１２７２０発あり、それらが１つでも使用されると放射線の被害は広い海のないところでは防げないそうなので、落とされたらどうしようとこわくなりました。資料館で見た以上の悲さんさになると考えるとゾッとして、これらの話を聞いてから資料館の何倍も何倍ものおそろしさを感じました。

二日目は、原爆の子の像に折りづるをささげました。たくさんの折りづるがあり、これだけたくさんの人がこのことを知っていることはすばらしいと思いました。

派遣団に参加して、原爆は被爆者だけでなくその子どもにえいきょうが出て、その人たちの家族や大切なもの、夢や平和な時間もうばう、最悪なものだと思いました。

戦争や原爆のおそろしさを多くの人が知ることが、戦争を防ぐ方法だと思います。だから、私もたくさんの人に伝えていきたいと思います。学んだことを絶対に忘れません。

広島派遣団に参加して学んだこと

富野小学校　６年　**岡　井　啓　真**

ぼくは、７月27日から28日にかけて、「平和のための小中学生広島派遣団」で広島に原爆について学びに行っていました。

まず、「原爆ドーム」の本当の名前は「広島県産業奨励館」といがいと長いということを知りました。しかも、原爆ドームの本当の名前について考えたこともなかったのでこのきかいに知れてよかったです。次に、爆心地の島病院についてです。被爆者の飯田さんの話によると、原爆は６００ｍ上空でさくれつしたので、爆心地と言ってもさくれつ地からは６００ｍはなれているそうです。しかも、島病院は厚さ１ｍの鉄筋コンクリートの壁だったらしいので、こわれないとおもいますが、なんとこっぱみじんになってしまったそうです。ぼくはそのことにショックをうけました。しかも、原爆ドームは、広島で１番がんじょうなたてものだそうです。それまでもがあのようにぼろぼろになってしまったことにもさらにショックをうけました。ほかにショックを受けたことは、黒い雨のあとがシミになっているのを28日の追悼平和祈念館で見たときです。雨なのにベトベトしていて、シミになったみたいでした。しかも、黒い雨は、原爆のひがいをうけていない人にまでひがいをもたらしました。そのことを知って、原爆はどんなことがあってもつかってはいけないものだとさらにつよくかんじました。

次にいちばんこころにのこったことについて書きます。それは、黒い雨のシミの近くにてんじしてあったさんりんしゃです。形はく

ずれ、色は黒くへんしょくしてしまっていました。それだけでおそろしかったのに、うしろのほうに白い部分があります。あとから話を聞くと、なんとそこにはちいさいこどもがすわっていたらしいのです。ぼくは、このことがいちばんこころにのこっています。

このようなひばく者のつらいおもいや、かぞえきれないほどの人の命をいっしゅんでうばいさっていった原爆のじったいを見て、あらためて、原爆はどんな理由があろうとも、二度とつかってはいけないものだと思いました。これでぼくの「広島派遣団に参加して学んだこと」をおわります。きちょうなたいけんをさせていただきありがとうございました。

原爆の悲惨さ

富野小学校　6年　**柿林琉菜**

私がなぜ広島派遣団に参加したかというと、四年生の時に学校の授業で先生が戦争の話をして、その話で私は戦争や原爆の怖さを少し知る事ができました。それで六年生になってこの広島の応募のプリントを渡され、四年生の時に聞いた話だけじゃなくて自分の目で見て、もっとしっかり戦争や原爆の怖さ等を知る事ができると思って今回参加しました。

平和記念資料館には、戦争や原爆の恐さが分かるものがたくさんあり、それを見るととても怖くなりました。三輪車に乗っている時に原爆が落とされ、死んでしまった子供が乗っていたこげた三輪車や、髪の毛がぬけてしまってはげている子供の写真や、背中の皮膚がとけてしまい、手術を約十六回おこなっても皮膚が治らない人の事がうつった写真もありました。それを見るとかわいそうになってきました。

被爆者の方の話を聞いて私がもっと恐いと思ったのは、原子爆弾が落とされた後の時の事です。原子爆弾が落とされた後、みんなあつくてあつくて水を求めて川の方へ行きました。川を見ると人の死体が川一面にびっしりとあったということがとても恐いと思いました。それに原爆が落ちた後も病気になって死んでしまうことがあり、生きていけるかどうかわからない事を知って恐いと思いました。被爆者の方の話はとても恐くとてもかわいそうでした。被爆者の方は悲しくて、つらくて、嫌な思いをしたのに、私たちみんなに話すことができるのがすごいと思いました。

私はこの広島派遣団に参加して分かったことは、まだあんまり戦争や原爆の事を知らない人がいるから、できるだけ多くの人に知ってもらうためにまわりの人に伝えていくのが大切だという事が分かりました。

みなさんに伝えたい事があります。

無駄に命を捨てないでほしい。

戦争や原爆でなくなった人たちのためにもがんばって生きてほしい。

命を大切にしてほしい。

私は、この世から戦争や核兵器がなくなり、平和な国になればいいのになと思いました。

広島で学んだこと

富野小学校　6年　**福　井　虹　七**

私が広島派遣団に参加しようと思った理由は、戦争や原爆のことを少ししか知っていなかったので、もっとよく知りたいと思い参加しました。

一日目に行った平和記念資料館で見た物の中で心に残った物は三輪車です。こげた三輪車の他にも、やぶれている服や背中の皮ふがぼこぼこになっている写真がありました。それを見ると、自分があの場所にいたら怖くて動けなかったと思いました。でもその中でも生きぬいた人がいることを知って、すごいと思いました。こげたお弁当箱が展示されていました。そのお弁当箱も黒こげでした。展示されている物は黒こげの物が多くて原爆の強さを知りました。原爆が落とされた日は八月六日午前八時十五分で暑い日の朝はとてもにぎやかなイメージがありました。でも原爆の落とされた後の写真を見た時そのイメージはなくなりました。それが原爆の強さだと思いました。

被爆者の話を聞いている時に思いました。被爆者が話している時に、とても気持ちがこもって話していると思いました。話している時悲しそうに話している時もありました。それに気づいてからこう思いました。あの時のことが忘れられないのかなと思いました。

二日目に行った追悼平和祈念館で心に残ったのは、遺影コーナーです。遺影コーナーには大型モニターがあってそこには原爆死没者の写真が映し出されていました。原爆で亡くなった人の数はとても多かったです。その中には赤ちゃんの写真もありました。小さい子どもがとても苦しい思いをして亡くなるのを想像するととても悲しかったです。そしてその子のお母さん、お父さん、兄妹も悲しんだと思います。

この事がもう二度とおこってほしくないという思いが強くなりました。この二日間で見た事を色々な人に話して戦争や原子爆弾の怖さを知ってもらいたいと思いました。広島派遣団に参加してよかったと思いました。

広島に行って

富野小学校　6年　**藤　原　柊　乃**

私が広島派遣団に参加した理由は、友達との思い出作りにと思い参加しました。

7月27日（木）は、広島に着いて、さいしょに、原ばくドームとばく心地に行きました。原ばくドームは、テレビや教科書で見たことはあったけど、実さいに見て、本当にそこにおちたんだなと原ばくのおそろしさを実かんしました。ばく心地の島内科医院では、とてもがんじょうにつくられていた病院だったのにほとんど何もなくなり、そのしゅん時に人々も命がうばわれたそうです。とてもこわいなと思いました。

その次に平和記念資料館をけんがくしました。入ってすぐ空気がとてもおもいとかんじました。そして、入っていくと、中には戦争

の時のひがいの写真などいろいろ置いてありました。すごく可哀そうだったしこわかったです。

焦げたお弁当箱などが、置いてありました。顔に、小さいガラスがささった写真などが置いてありました。そして、血がついた衣服などが置いてあったので、びっくりしました。他にもいろいろあり、それを見て戦争のこわさをリアルに感じました。

そして、1日目のさいごにひばく体験者の話をききました。昭和二十年八月六日午前八時十五分に、広島に原子ばくだんがおとされました。「ピカッドーン」と、とても大きな音がしたそうです。にげおくれたら死んでしまうし、全身やけどの子どもが水をほしがっていたり、てっこつの下じきになってにげられない人が「たすけて！」とさけんでいたり、頭がわれたように血が出ている人がいてまるでじごくみたいだったそうです。そして日本は、完全に戦争にまけました。戦争をしてもいいことなんて一つもないから戦争は、絶対にしてはいけないことだなと思いました。

二日目の7月28日（金）は、広島平和記念公園内を回って、慰霊碑に行き、花をささげました。G7サミットで、岸田そうりなどが行った場所だなと思いました。原ばくの子の像に折り鶴をささげました。折り鶴は長寿祈願・幸福祈願・災害祈願・病気快ゆの意味がこめられ、平和のためにささげるそうです。

広島派遣団に参加することによって、はじめは、あまりきょうみがなかったけど、平和の大切さ、戦争のこわさを実さいに見たりきいたりして、もっとしりたいなと思いました。そして、今どれだけ幸せな生活をしているかもわかりました。他校の人とも交流ができて、参加してよかったと思うし、いろいろなことを知ることができ、いい体験になったと思います。

広島に行って

富野小学校　6年　**古川智彩**

私は平和のための小中学生広島派遣団として七月二十七、二十八で広島に行きました。その理由は、本やインターネットなどでしか原爆のことを知らなかったので行ってみたいと思ったからです。

広島に着いて原爆ドーム（産業奨励館）を見てから爆心地に行きました。原爆ドームは、当時のがれきや鉄骨などが残ったままで、一瞬で立派だった建物が粉々になってしまったんだと、とてもおどろきました。爆心地に行くと、今は島病院という場所になっていましたが、原爆被災説明板というものがあり、当時ここでなにがあったかが書かれていました。原爆ドームと爆心地を見た後、平和記念資料館に行きました。資料館には破れた服や被爆者がかいた絵やこげてしまった三輪車などがありました。特に自分が印象に残った物は、小学生の服と人影の石です。その理由は、服は、とけた皮膚にくっついてとれなくなり、はさみで切ってなんとか取ったという話を聞いて、とてもゾッとしたからです。そして人影の石は、住友銀行広島支店の入り口前に座っていた人が、にげることもできないままその場で亡くなってしまったんだと考えると、とても悲しくなりました。

私は広島に行く前から、広島の原爆についての本を読んでいまし

た。そして本を読んだだけで広島で起こったことが分かったと思っていました。でも、いざ広島に行ってみると、ほんの一部しか分かっていなかったんだな、と気がつきました。私はこの二日間で「平和」というものが広島に行く前よりもよく分かったと思います。八月六日まで普通に暮らしていた人々の生活が一瞬にしてじごくに変わり、さっきまで見ていた景色もなんにもなくなってしまったこの悲劇を、二度とくり返してはいけないと思いました。私は広島と長崎で起こったことはほんの一部しか知られていないと思います。今でもウクライナとロシアとの戦争みたいに様々なところで争いが起こっていてとても悲しいです。広島でぎせいになった人たちのように、これ以上つらくて苦しくて悲しい思いをする人が増えてほしくないです。なので、世界中の人々が今以上に平和の大切さや、戦争のひさんさをもっともっと考えて行動してほしいです。

今回は、色々な経験をさせていただき、ありがとうございました。

広島で学んだ事

富野小学校　6年　**松田愛碧**

私が広島派遣団に参加した理由は、原爆の事をもっと知りたいと、思ったからです。

1日目は、原爆ドームと平和記念資料館に行きました。私は原爆ドームを初めて見る事が出来ました。原爆ドームは、たくさんの人が、仕事をしていた場所だと聞きました。そこにいた人達は全員亡くなられたそうです。一瞬のうちに命を奪われたのだと思うと、おどろき、心が痛くなりました。原爆ドームの周りには、がれきが、当時のまま置かれていました。原爆の悲惨さが、伝わってきました。

平和記念資料館では、たくさんの展示物がありました。その中でも、印象に残ったのは三輪車です。三輪車には、さびている部分と、溶けている部分があり金属があんな姿になる事に怖くなりました。

その次に講話を聞きました。講話では、原子爆弾の「本当のおそろしさ」を教えてもらいました。それは被爆直後も苦しいけどその後も、とても苦しいとおっしゃっていました。この2つの苦しみがある事を知って原爆はおそろしい爆弾だと思いました。まだ苦しんでいる人も、いらっしゃると思うので早く治療方法が見つかって欲しいです。講話してくださった方や語り部さん達は共通して「もう二度と戦争は起こって欲しくない」とおっしゃっていました。私も原爆の悲惨を知り強くそう思いました。

2日目は平和の子の像を見ました。平和の子の像の周りには折りづるがささげてありました。この平和の子の像は、ささきさだこさんがモチーフになっています。さだこさんは2才で被爆され、その後小学生の時に白血病になられ12才でなくなってしまったとガイドさんがおっしゃっていました。私と同じくらいの年れいなので、自分と置きかえるともっと生きて色んな事がしたかっただろうなと思いました。

平和記念公園にも行き、原爆死没者いれい碑に「白いきく」をささげました。そこにはたくさんのお花があり色んな人が手を合わせていました。どうしたら平和になるのかなと考えました。戦争をしてもいい事は無いと思います。

この2日間原爆のおそろしさを知る事ができました。こんな悲げきは、もう起こって欲しくないと思います。

広島平和派遣で学んだこと

富野小学校　6年　山口結美

私たちは、二日間広島で原爆のことや平和について学びを深めてきました。

一日目に平和記念資料館に行きました。入ってすぐに、当時原爆が落とされ建物が一瞬で崩れていく様子を、プロジェクションマッピングで表現されている展示物がありました。見学を進めていくと『「助けて」「水をください」動く気力もない母親の胸にすがる幼児。』や『「目を開けて、目を開けて」子供の名前を呼び続ける半狂乱の母親』などの、当時の人々の助けを求める叫びが表現されている絵や、くっきりと人影が焼き付いたコンクリートが展示されていました。それらを見たとき、原爆が落ちた一瞬で人々を消し去った情景が見られ、原爆の激しさを目の当たりにしました。そして、私が一番印象に残ったのは、原爆によってぼろぼろになってしまった服や小さなパンツ、溶けてさび付いた三輪車、ずっと大切に握りしめていたベルトなどを見たときでした。多くの尊い命を簡単に奪うことの出来る原子爆弾。何ともいえない感情になりました。

二日目に原爆ドームを見に行きました。真上から原爆を落とされた衝撃により、屋根の部分は鉄骨だけになってしまっていたものの他の部分は残っていました。爆心地からとても近かったのにも関わらず、今もなお残っている原爆ドームは、あの日広島の人々が助けを求め、川が真っ赤に染まり何も無くなってしまった街のことを後世にも伝え、誰もが笑顔でいられる平和な世界を願っているように思えました。それから、原爆の子の像に千羽鶴をお供えしてきました。たくさんの千羽鶴が飾られていました。もう二度と同じことが起こらないように、戦争がこの世の中からなくなることを祈りながら、千羽鶴をお供えしました。あの日、約十四万人の死傷者を出した広島の原爆。二度と同じことが繰り返されてはなりません。被爆者の方々からお話を聞ける貴重な機会も少なくなってきてしまい、これからの平和な世界を担うのは私達若者です。そのために、まずは、原爆についてより多くのことを知らなくてはいけないと思いました。

私は、今まで広島の原爆が八月六日に落とされたことしか知らず、原爆がどれだけの威力を持ち、どれほどの人々を長年苦しめてきたのか何も知りませんでした。本やインターネットで原爆について学びを深めるなか、痛々しい人々の傷や、何も無くなってしまった町を見たときは目をふさぎたくなりました。ですが、この2日間を通して、八月六日キノコ雲の下で実際に起きたことについて、被爆者の方からの貴重なお話などから、多くのことを知り、学ぶことができました。そして、これからも、もっと原爆について、平和について、知らなくてはいけない、考えなくてはいけないと思いました。広島平和派遣を企画してくださり、ありがとうございました。

原爆の恐ろしさ

富野小学校　6年　山口　りかこ

私は、広島に行って原爆の恐ろしさを学びました。

私は今まで原爆のことはテレビやインターネットでしか見たことがなく、実際に見るのは初めてでした。

一日目は資料館に行きました。資料館に入ると、原爆の被害の大きさがわかる映像がありました。原爆が落ちると一瞬に建物がなくなりました。この映像で原爆の威力がわかりました。

私が想像していた何十倍の人が亡くなったと知ったときは、心が痛くなりました。私だと、家族や親せきが死んでしまうと心が折れてしまってたえられないと思いました。原爆を体験した人は強かったんだと思いました。

この資料館での見学や話を聞いて心に残ったことがあります。それは、いつ病気になって死ぬかわからない恐怖です。原爆の被害を受けてもすぐに発症するのではなく、いつ発症するかわからないという恐怖が原爆の怖さの一つだと思います。原爆症というのは原爆が落とされて多くの被爆者が7年～8年後をピークに白血病を発病します。7年～8年という長い年月がたっても発症すると考えると人々は安心に生活できないと思います。ついに自分もなってしまったという絶望感がすごいと思います。

二日目は、追悼平和祈念館に行きました。そこには、原爆で亡くなった人の写真が見れました。そこには、赤ちゃんからおじいさんおばあさんの写真がありました。こんな幅広い世代の人々が亡くなったと考えると悲しくなりました。

私は、広島にきていろいろなことを学べて、勉強になりました。知ることができたから、このことをいろいろな人につたえて、今後このようなことがおきないようにしていきたいと思いました。原爆の恐ろしさや命の大切さなどを、大切にしていきたいとしっかりと思いました。日本は戦争のときより今は平和です。でも他の国は今も戦争が行われています。もっと多くの人に広島に来てもらってこれだけ多くの犠牲者が出たということを知ってもらいたいです。そしていっこくも早く世界が平和になってほしいです。

原爆の悲惨さを知って

城陽中学校　1年　藤井　祐之介

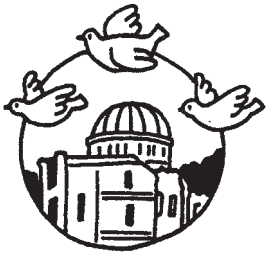
僕は実際に広島に行ってみてある事に驚きました。それはとても原爆が落とされたとは思えないような明るい街並みだったからです。たくさんの建物が立ち並び、路面電車が走り、大きな川が流れているのが印象に残りました。僕は原爆が落とされてあれだけ甚大な被害を受けているなら七十八年たった今でも復興ができない、まだできていない所があるのかなと考えていました。

実際に資料館で見たものも今では想像も付かないほど痛ましく、被爆した人の悲痛な叫びが伝わってくるように感じました。特にぼろぼろになった三輪車と黒く焼けこげた弁当箱は、今のように何気ない日常があった事を感じさせていて、今でも強く心に残るぐらい

印象的でした。しかし実際は活気に満ち溢れている街並みに、人々の「復興させたい」という思いが詰まっているようで感動しました。それと同時に被爆したことで何年も病気にかかっている人がいる事、差別的な意見が残っている事など、様々な解決しなければならない問題がある事も知りました。

その解決しなければいけないという思いは1日目の被爆者の話でより一層強くなりました。被爆した方はスライドショーを交えながら、自分の体験を元にどんな事が起こったか、原爆がどれだけの命を奪ったかという話をしてくださいました。その中でも僕が一番驚いたのは、今まで一日も体調が良くなった事がなかったという事です。被爆者の方のつらい思いがひしひしと伝わってきて、何年も休まる事なく苦しんでいると思うと僕までつらくなりました。そして話を伝え、二度と同じ事をくり返さないようにする事が解決への一歩であって、僕のするべき事だと強く感じました。

そして今回の広島派遣で折り鶴を捧げる機会がありました。僕はその折り鶴に「いつまでも、この平和がつづきますように」と願いをこめて捧げました。これからも同じ過ちをくり返さず、被爆して亡くなった人が安らかにねむってほしい。そう願っています。



広島での二日間

城陽中学校　一年　杉村侑香

私は七月二十七、二十八日の二日間で、実際に日本で起きた戦争の恐ろしさや原爆とはどのようなものなのかを学びに行きました。

私が「城陽市平和のための小中学生広島派遣団」に参加しようと思ったきっかけは、戦争に関するニュースを見る機会が増えて、何故戦争が起きたのか、戦争はどのようなものだったのかなど気になったのでこの広島派遣団に参加しました。

一日目は、爆心地、原爆ドーム、平和記念資料館に行きました。広島に到着してからすぐに原爆ドームを見ました。原爆ドームを見て私は「建物がこんなにくずれることってあるんだ。」と思いました。原爆ドームを見て、原爆の悲惨さや恐ろしさが伝わってきました。次に平和記念資料館へ行きました。資料館では、当時の風景や、当時使われていた物がそのまま残されていました。資料館の中で特に印象に残っているものは、原爆が投下された直後の広島市の人々が描かれている絵です。皮膚が焼けただれ、水を求めて歩く人々の顔は、パンパンに膨れあがっていて、見ていてとても胸が痛くなりました。絵で見るだけでも、悲惨さが伝わってくるのに、実際、現実で起こったことというのがとても恐ろしいと思いました。一日目の最後は、被爆者の方の講話をお聞きしました。戦争を経験していない世代の私達にも分かりやすくお話してくださいました。お話を聞いて、原爆や核を二度と使ってはいけないし、これ以上戦争で苦しむ人を増やしてはいけないと思いました。被爆者の方の講話をお聞

きした後は、ホテルへ戻り、一日の感想を共有し合い、もちよった折り鶴にメッセージを書きました。

二日目はまず、原爆の子の像に折り鶴を捧げました。そこにはたくさんの折り鶴があり一つ一つ色が違っていたり、デザインが違っていてとてもきれいでした。次に原爆死没者慰霊碑へ行ってお花をお供えしました。最後は国立広島原爆死没者追悼平和祈念館へ行きました。私はここで、原爆の仕組みや、放射線について調べました。またここでは被爆し亡くなった方々の写真や名前などの情報を知れる機械がありました。

この二日間を通して、戦争は絶対に起こっていけないことであり、一人一人の平和が保証されるすてきな世界になってほしいと思いました。この二日間で自分が体験した出来事や学んだことを、周りの人達や、戦争を知らない世代にも伝えていこうと思います。

広島派遣団に参加して

西城陽中学校　1年　**吉　岡　凛太郎**

僕は今回参加して、たくさんの事を学びました。たとえば、戦争のおろかさやひさんさ、爆弾の危険さが良く分かりました。ですが、きずぐちや、曲がった自転車など、ちょっとだけ怖かったです。

ホテルや旅館のごはんがおいしく、部屋もきれいでとても満足しました。

一緒の部屋の子や、行動班の子たちとは仲良くなれて、より一層楽しくなりました。また次の機会があれば、絶対に参加しようと思います。

一番思い出に残ったのは、お好み焼き体験です。こっちのお好み焼きとはちがい、具材が大きかったです。ですが、とてもおいしかったので、良かったです。

今回はきちょうな体験をありがとうございました。

広島に行って

西城陽中学校　1年　**植　村　更　咲**

私が広島派遣団に参加した理由は、「広島消えた家族」という本を読んで原爆に興味を持ち、より詳しく原爆や戦争を知りたいと思ったからです。

一日目は平和記念資料館に行きました。そこで私は色々な物を見ました。ボロボロの軍服、とけて原形をとどめていない弁当箱、血だらけの人々の写真。そこに展示されている物は私が知っている戦争とは全く違うものでした。今まで、戦争が起きて広島と長崎に原爆が落とされ多くの人々が死に、戦争に負けたという事は知っていました。今回、実際に被爆した人々の絵や写真、当時の物を見て、原爆は本当に落とされて、それによって、それぞれ人生があり家族があった人々が一瞬で死んでしまったり、人生が変わってしまった事が分かりました。教科書や本で知っていただけで、被爆した人々の悲しみ苦しみを理解していなかったのだと感じました。

資料館の次に、被爆者の方の話を聞きました。その方は三歳の時に被爆したそうです。その方はとても明るく当時の様子を話してくれました。ですが話している内容は当然明るくなく、血の気が引くような内容でした。特に恐ろしく思ったのは、爆心地から近いところの死体は一瞬で灰になり、六年後に初めて灰の死体が発見されたという話です。今まで生きていた人間がたった一つの爆弾で痛みを感じる間もなく灰になる、その話を聞くと被爆され死んでいった人がとてもかわいそうだと思いました。それと同時に、もし、自分や自分の家族、友達が灰になり、六年間も発見されず行方不明になったらと思うと、とても恐ろしく感じました。

そして2日目は国立広島原爆死没者追悼平和祈念館へ行きました。そこには死没者の方の名前を調べられる所がありました。ためしに「広島消えた家族」に出てきた人物の名前を調べてみました。すると、同じ名前の人が出てきました。本を読んでいる時は物語の登場人物と思っていましたが、実際に亡くなった人として名前が出てきて、本当に生きていて、本当に原爆で亡くなったのだと実感し悲しくなりました。

今回広島に行って何の罪もない人々が一つの原爆により一瞬で人生を奪われた事を知りとてもショックを受けました。もう二度と広島と長崎のような事が起きないように、今を生きる私たちが原爆や戦争に対する正しい知識を持つことが大切だと感じました。そして、もっと世界の人々に原爆の恐ろしさを知ってほしいと思いました。

広島で学んだこと

東城陽中学校　2年　**中野太陽**

今回、広島に行って原爆の本当の恐ろしさについて知り、戦争というものがどれだけの人々を苦しめるものなのか感じることができました。

僕が広島派遣団に参加した理由は、家族の勧めで行くことになりました。

広島市内に到着し、平和記念資料館の中に入ると一気に七十八年前にタイムスリップしたかのように当時の悲惨な光景を目にすることとなりました。原爆というものは爆発する、という恐ろしさだけではなく、原爆によってたくさんの人が辛い経験をし、被爆者の一人一人に大きな人生があることを感じました。原爆は身近なものじゃないと思っていたけれど、無差別に突然襲う点が自分にも身近に感じられ、絶対に存在してはならない危険物が広島と長崎に落とされたんだと思うと本当に悲しい気持ちになりました。原爆の被害は建物だけではなく、放射線によって苦しめられた人々がたくさん存在し、写真を見て、当時は数え切れない人々が命を失い、病と戦ってきたのかと思うと胸が苦しめられました。

また、被爆者講話では原爆が落とされた当時の人々の感情について詳しく教えてくださいました。被爆者の方達は当時、辛い経験をし、苦労をしてきたけれど、今でも苦労をして生きている被爆者の方達がいるということを知り、戦争の傷はいつになっても消せないものなのだと感じました。三歳のときに被爆された飯田さんもその

一人で、原爆が落とされた苦しみや悲しみなどが今になっても何度も夢に出てきたり、今もいつ癌や白血病になるのか分からない状態が続いていることに、原爆のせいで日常生活に支障が出ている人々が今までもいる現状に驚いたし、原爆というものがどれほどの影響を持ったものなのか改めて感じました。

翌日、折り鶴を捧げに行きました。昨日、平和記念資料館や被爆者講話で感じたことを、原爆で亡くなった方々、苦しんでこられた方々に思いを込め、捧げました。

戦争や原爆というものは、教科書に載っている物語や社会の授業で習った程度で、今回、広島派遣団に参加して、戦争や原爆について詳しく知れたこと、被爆者講話を聞くことができたことはとても貴重な経験で、参加してよかったと思うし、今も戦争は世界で起こっているけれど、戦争というものはどれだけ人々の心や体を傷つけているのか考えさせられ、「世界から核兵器というものがなくなり、笑顔が溢れますように」と願い花を捧げました。

このような機会を与えてくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、自分も周りの人々に平和学習で学んだこと、飯田さんの講話や、原爆の被害などを伝えていかなければならないと思いました。

貴重な経験をありがとうございました。

広島から学んだこと

東城陽中学校　2年　宮木美怜

今回、私は母に勧められたのと、学校や本で得ていた原爆の知識の他に、もっと詳しい話や資料が見たいと思ったのがきっかけで、広島派遣団に参加しました。

一日目は爆心地、原爆ドームを見学して、平和記念資料館を見学しました。原爆ドームでは元はきれいに左右対称の塀をしていたはずなのに、ボロボロになって鉄骨がむき出しになっている様子を見て原爆の威力を知りました。また平和記念資料館では原爆が落ちた後、奇跡的に生き残ったのは良いものの、身体中にやけどを負って皮膚がただれている写真や真っ黒になった三輪車など、他にも見ているだけでつらくなるような物が多くありました。もしこの時代に自分や友達、家族が生きていたら同じような目にあっていたかもしれないと考えただけでおそろしくなりました。そして最も印象的だったのは被爆者の講話です。三歳の時に被爆された飯田さんは、原爆を受けた後の広島を、地獄の最下層の阿鼻地獄だったとおっしゃっていたのが特に印象に残っていて、他にも爆心地からマッハ一・三の爆風がふいたり、「粉灰」に一瞬になってしまう遺体や放射能を含んだ黒い雨が降ったりした、などの詳しい原爆の様子を知って、聞くのがつらくなるようなお話だったのをとても覚えています。

二日目は原爆の子の像に折り鶴を捧げたり、追悼平和祈念館で学習ワークブックなどを使ってクイズに答えたりしながら、原爆についてもっと知ることができました。特に、原爆の被害にあって亡く

なった方の写真を調べられる機械で、『佐々木貞子』さんのように、原爆症で、被爆してから何年も経ってから亡くなっている方が何人もいらっしゃることを知って、とても驚きました。放射能はすぐ症状が出る訳ではないということは、とても特殊で危険な物なのだと理解できました。

この二日間で、私は何があっても核や原子爆弾は使ってはならないと痛感しました。戦争という国どうしの〝けんか〟が起きないように『思いやりの心』を持つことが大事だと思いました。貴重な体験、ありがとうございました。

原爆の恐ろしさ

北城陽中学校　2年　里　夏　実

私が広島派遣団に入った理由は、図書館のポスターを見て、原爆のことをよく知らないと思ったからです。

一九四五年八月六日午前八時十五分、広島に原爆が投下。一瞬にして広島の町ががれきとなり、多くの命が失くなりました。私は、当時の写真、残った遺品を見て気分が悪くなりました。そして、戦争をする意味が分からなくなりました。平和は失敗をして、ぎせいを出さないと手に入らないものなのかと思わされました。

今の原爆ドーム付近は木々が植えられ、平和を願う場所としてきれいにされています。しかし、資料館を見た後バス内で思い出したのは川に溢れる人々の景色と街並みでした。川の幅は相当の大きさと長さがあるのに、その中に入り切らないほどの人々がいたと考えると、原爆の恐ろしさというのを再確認しました。また、街が炎につつまれているところもあると考えると、皆が地獄だったと言っているのにもなっとくできました。

次に被爆者の話です。印象に残っているのは二つです。一つは当時の状況を鮮明に覚えていることです。原爆が落ちた時、ピカッとひかり、爆風がふいて生きうめになって、そんな一つ一つが頭にこびりついていると考えると、私が被爆者だったら休息すら十分にとれなくなると思いました。二つ目は後遺症です。火傷をおった人は、その部分が盛り上がるケロイドになり、佐々木さんのように白血病になる人もいたり、黒い雨が降った際に放射のうをあびてしまって、病気になる又は、子供にも影響してしまう等、被爆した後も苦しめられている人が今もたくさんいるということは衝撃的だったし、亡くなってしまった方もたくさんいると思うとかわいそうではすまないと思いました。

原爆の子の像では、周りにある千羽鶴の数に驚きました。千羽吊るしているものや、文字にしているもの。すべてが誰かの手によって想いを込めてつくられていると思うとすごいことだと思いました。

私は、この広島派遣団に入って原爆の恐ろしさを初めよりも知ることができました。また被爆者の方が、どのような想いで過去を語ってくれているのかも知ることができました。なので、今後話を聞く機会があれば、この二日間のことを思い出しながら聞きたいです。この貴重な体験は忘れないようにします。

今を大切に

北城陽中学校　2年　**小沼咲空**

私が広島派遣団に参加した理由は、学校で勉強していて分からない所、まだ知らない所を深く知りたい、平和はどういうことか自分で知りたいと思ったからです。

一日目は、平和資料館や原爆ドームを見に行きました。平和資料館では、当時着ていた服や物が沢山置かれていました。それを見て実際に戦争はあったんだと改めて実感させられました。また、写真や絵も展示されてあり、それを見る度に悲しい気持ちと怖い気持ちが込み上げてきました。原爆ドームは、当時、原子爆弾が落ちてきた時と同じような姿で今も残っていることに、驚きと悲惨さが建物だけでも伝わってきました。

また、講話も聞きました。講話では実際に体験された方のお話でとても貴重な体験だなと思いました。そのお話では、原子爆弾の近くにいた人は粉々になってしまったり、放射線の恐ろしさ、原子爆弾の恐ろしさや戦争の悲惨さがすごく伝わり怖かったです。原爆は無差別だという言葉がすごく心に残っていて本当にその通りで、何も悪いことをしていない人も亡くなってしまったことがすごく悲しいと思いました。

二日目は、広島平和記念公園や慰霊碑を見学しました。そこでは、原爆の子の像に折り鶴をささげました。原爆の子の像は、初めて見てガイドさんからお話を聞き、生きようという強い意志にすごいという気持ちと悲しい気持ちがありました。

追悼平和祈念館へも行きました。そこでは、亡くなった方の名前や写真を調べるとわかる所でした。その名前の数はわからない程たくさんあり、たった一つの爆弾でこんなにもたくさんの命を一瞬にして奪うことに大きな怖さを感じました。

私はこの二日間で思ったことが二つあります。

一つ目は、原子爆弾の恐ろしさや、どんな悲惨なことになるかをまだ知らない方やこれから知っていく方に詳しく知ってもらいたいため、私が伝えていかなければいけないなと思いました。

二つ目は、戦争の恐ろしさを知った今、私たちは、争いをせずに一日一日の今を大切にしていかないといけないなと思いました。

戦争の恐ろしさ、原子爆弾の恐ろしさが沢山学べて貴重な二日間になったなと思います。学んだことは、沢山の人に伝えていきたいです。

広島派遣団に参加して思ったこと

北城陽中学校　2年　**廉隅心空**

私は広島派遣団に参加して、思った事は、核兵器の恐ろしさ、戦争の怖さです。

私はこの一泊二日の旅で原子爆弾の恐ろしさについて学び、心が痛くなりました。今回は、原爆で被害にあった飯田さんにお話をきかせてもらい、原子爆弾は無差別のバラバラ殺人であると言われて、何もしていない人の幸せを一発の原子爆弾が奪っていて、とても悲

しいです。政府は、たき出しでも、水を出さず、そのまま餓死させて、政府は当時最低だと思いました。

そして資料館で見た被害者の折面滋（おりめんしげる）くんのお弁当には、畑でたくさんとれた野菜、お母さんが作ってくれたお肉などが入っていて、滋くんはお弁当を食べるのを、ワクワクしていたけど、それを食べることは、できなかったと思います。滋くんの遺体の下には、水筒とお弁当箱がおかれていたそうです。滋くんのお母さんが、迎えに来たけど滋くんは、即死していたので、お母さんの声はきこえなかったのです。お母さんは滋くんの無惨な姿に絶句し、そのまま泣き崩れたそうです。もし、私も当時のときに生きていたら、滋くんみたいに、お母さんが悲しむ姿を見せたくないと思います。

続いては、佐々木貞子ちゃんのお話も音声ガイドを付けて、周り、一番印象に残ったお話でした。貞子ちゃんは活発な子で、走りも速かった子です。しかし原子爆弾で受けた白血病で倒れていました。入院生活になった貞子ちゃんは、平和のために折りづるを作りはじめました。生涯貞子ちゃんは千羽以上のつるを完成させました。しかし病の進行により、髪も抜けていました。お母さんが、貞子ちゃんに何か食べたいと言い、貞子ちゃんは、お茶漬けが食べたいと言い、お父さんが米を買ってきて、お母さんがお茶漬けをつくり、食べさせました。そして貞子ちゃんは、おいしい、ありがとうと言い、八月九日貞子ちゃんが原爆による白血病が悪化し十二歳と言う若さで亡くなってしまいました。これで原子爆弾は、平気で人の命を奪う恐ろしい兵器だって改めて分かりました。

この経験を生かして、核兵器の恐ろしさや、被爆した人たちの思いを心に留めて、核兵器の恐ろしさをまだ知らない人にたくさん教えられたら良いと思います。

私自身もこれから、核兵器がまた日本に落とされないことを祈るしかできないので、広島や長崎の原爆のことを忘れずに、日本にもたくさんの幸せが訪れることを祈り、核兵器が世界から滅亡されることを祈り、自分も、これからたくさんのボランティア、募金などをして、日本のみなさんが平和に幸せになるようにしていきたいです。

広島をおとずれて

北城陽中学校　2年　**鈴木奈々**

私は、広島派遣団に参加してたくさんのことを知ることができました。例えば、原爆のおそろしさや怖さ、戦争のつらさや放射線のことなどを実際の資料や被爆者のお話を聞いたり見たりして、とてもたくさんのことを知ることができました。その中でも心に残ったことが原爆でした。

実際に広島をおとずれてみて、私は、これまで広島・長崎への原爆投下について、テレビや教科書を通じてしか学んだことがありませんでしたので、こんな私が、広島派遣団に参加し、何ができるのだろうと思いながら広島に向かっていたことを覚えています。戦争というおそろしい体験、原爆の熱風と暴風によって、一瞬のうちに多くの尊い命が奪われた辛く悲しい体験、私達には想像もつかないような出来事です。それだけに、当時体験した人だけが知る原爆の

怖さは、言葉だけでは伝わらないのではないかという思いもありました。それで私は、平和に関するさまざまな論議がある中で、原爆が投下された広島を実際に見て感じたいと思いました。

実際、平和記念式典が行われる場所へ行ってみると、言いようのない感覚におそわれたことを、今でも鮮明に覚えています。式典での暗く重い言葉は、その悲しい戦争を物語っているようでした。原爆は、その戦争が起きたために投下されました。戦争は、こんなにも悲しく歴史に残るものだと知らされただけでした。こんなに人々が残酷になるようなことは、もう二度とあってはならない。世界中が、いつまでも平和であるようにと願いながら、きくをささげました。また、講話をしてくださった被爆者が「絶対悪」である核兵器の廃絶を目指さなければならないと語っていたことが印象的でした。核兵器がなくなれば、平和であるとは限らないけれど、他にも、世界が良くなるためには1人1人が思いやりの気持ちを持つ事、命を大切にするという事を、自分にできる身近なことから始め、つないでいく事が大切だと思いました。

私は、広島をおとずれてたくさんのことを学んだり、原爆、戦争のことをあらためて考え直し、勉強することができた2日間になりました。だから、今回の経験を生かし、よりたくさんの人達に広島で起きた原爆の悲惨さ、事実を知ってもらい、2度と戦争が起きない世界にしたいと思いました。だから、私は今できることを実行していき、世界が平和になるように、少しずつがんばっていきたいとあらためて思いました。

戦争に対して思う事

北城陽中学校　2年　山　六　わこの

広島に実際行って、初めて広島に行って分からないことをたくさん知れたし知りたかったことも知れて良かったです。被爆体験者の話を聞いていたら戦争の怖さをたくさん知る事ができたし、行く前までは戦争は怖いだけのイメージしかなかったけど、戦争はご飯もまともに食べれないし、大切なものも全て失ってしまうのが戦争のおそろしいところだと学べたのと、自分達が今生きていることがどれだけすごいことなのか、どれだけ大切なことか、この広島に行って勉強できた事、食べ物、飲み物1口、1杯の食べられるありがたみ、自分のする行動の1つ1つ全てが幸せだと気づけました。自分は、嫌いな食べ物があるとそれだけのこしてしまったりするので気をつけようと思いました。

広島にいた人は、自分がしてきたほぼすべてのことができていなかった。自分と同じ位の人もいれば高齢者の人も小さい子もいる。小さい子供たちはとくにこの先長かったかもしれないし、この先経験していくことも多くはあったと思うので戦争を生んでしまった兵器がとてもゆるせないしとてもにくい。今の平和な広島があるのは、昔の広島の原爆の被害の方達がどんなときでも諦めず、広島の復興を強く願っていたからだと思えました。平和をつくることも続けていくこともとても大変だから、諦めないで続けることの大切さも学ぶことができました。

原爆直後の広島の写真や遺品を見た時に現実で起きたとは思えな

い位ひどい写真や遺品がたくさんありました。実際に原子爆弾が投下された時、その場にいた人達は「恐い」、「苦しい」、「悲しい」、「不安」では表されない、言葉にならない感情を、どう対処すればいいのか分からず、ただただ今でも苦しみ続けているのだから、言葉にならない位の思いを、今後は自分で親や友達、色々な人に知ってもらうために伝えていけたらいいなと思いました。また、実際、体験した人の講話、原爆の被害を受けた建造物、残酷さを物語る遺品など、ときには目をおおいたくなる様な事実もありました。でも、自分たちは歴史から目をそらさず、この悲しいこともこの先ずっと忘れないように、たくさんの人に学んだことを伝えていけたらいいなと思いました。広島に行ってたくさん学べて良かったです。知りたいことも十分学ぶことができました。

戦禍の広島の惨状と平和への決意

京都教育大学附属桃山中学校　2年　三　木　彰一朗

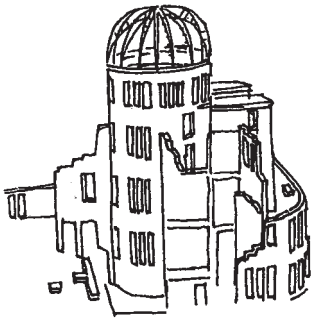
僕は今まで、平和についてあまり意識したことがなく、戦争は自分には関係のない、遠い土地での出来事だと思っていました。しかし、今回の広島派遣団に参加して、考えが百八十度変わる体験となりました。

一日目に訪れた広島平和記念資料館には、目を覆いたくなるような写真や絵、亡くなった方の遺品が数多く展示されていました。服や皮膚がただれ、水を求めて歩く人々の絵、人が座っていた部分だけ変色していない「人影の石」などです。その中でも特に印象に残っているのは、佐々木貞子さんの一生の記録です。佐々木さんは二歳で被爆し、十二歳という若さで白血病により亡くなりました。ほかにも僕たちより小さいときに被爆し、亡くなった子供たちが数多くいることを知りました。また、被爆者の方の講話も聞かせていただきました。講話では「原爆を落とされた広島はまるで地獄だった。いや、地獄のほうがましだった、地獄は生前悪い行いをした人が行く場所だから自業自得だが、原爆はそうではない。ただの無差別な殺人だ。」という言葉が特に心に残っています。また、爆心地にあった「島病院」は、鉄筋コンクリートでできた壁の厚さが一メートルもあったそうですが、被爆後跡形もなくなり、入院していた患者さんや働いていた看護婦さんは一瞬で粉灰になってしまったそうです。被爆者の方の生の体験談は、教科書や新聞、ネットなどの情報とは重みが違いました。各国は今でも核爆弾の開発を進めており、現在、世界には一万六千発もの核弾頭があるそうです。また、最新の核が使用されると広島、長崎の数十倍の被害が出ると予想されています。「核兵器廃絶による世界恒久平和」を実現するために、僕に何かできることはないのかと自問しました。

二日目は原爆ドームを見学しました。元々は「広島県産業奨励館」という建物で、広島で一番頑丈な建物だったそうですが、被爆前は左右対称だったのが、現在はいびつな形になってしまっています。そんなに頑丈な建物でも、原爆を耐えることはできなかったのだとわかり、恐怖を覚えました。その後、広島平和記念公園にある「原爆の子」に、一人一人が持ち寄った千羽鶴を捧げました。そこには数えきれないほどの千羽鶴があり、たくさんの人の平和への願いを

感じました。また、「原爆死没者慰霊碑」で献花も行いました。石碑の正面には「安らかに眠ってください過ちは繰り返しませぬから」と刻まれており、僕も平和な世界の実現を決意しました。

この二日間で、戦争や原爆の恐ろしさについて学びました。しかし、日本では終戦から七十八年たって、戦争を体験した方が年々少なくなってきています。そこで僕たちは戦争や原爆について学び、後世に伝えていく責任があると思いました。



編集・発行　**城陽市　企画管理部　秘書広報課**

〒610-0195　京都府城陽市寺田東ノ口16番地、17番地
電　話　０７７４－５６－４０５０
ＦＡＸ　０７７４－５２－１１７５
ＵＲＬ　https://www.city.joyo.kyoto.jp/
E-mail　heiwa@city.joyo.lg.jp

PRINTED WITH
SOY INK
TM
Trademark of American Soybean Association